

保護者 様

感染症の出席停止期間の基準・登園のめやす

豊岡市教育委員会 こども育成課

園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行を出来るだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう出席停止期間が定められていますので、以下の期間中は登園できません。感染しやすい期間に配慮し、集団での園生活可能な状態になってからの登園であるようご配慮ください。

注) 解熱：熱が下がり、体温が丸1日(24時間)平熱になった状態。

普段の食事がとれること：通常の給食等を摂取できる状態。(園では、おかゆ・うどん等の病人食の対応ができません。)

病名	感染しやすい期間	感染経路	出席停止期間の基準・登園のめやす
麻疹(はしか)	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	空気 飛沫 接触	解熱した後3日を経過するまで
インフルエンザ	発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い	飛沫 接触	発熱後5日間を経過し、かつ、解熱後3日を経過するまで
風疹	発疹出現の7日前から後7日間くらい	飛沫 接触	発疹が消失するまで
水痘(水ぼうそう)	発疹出現2日前～すべてかさぶたになるまで	空気 飛沫	全ての発疹がかさぶたになるまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	腫れる3日前～腫れた後4日	飛沫 接触	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫れが始まった日後5日経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
結核	—	空気 飛沫	医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、充血等の症状が出現した数日間	飛沫 接触	発熱、充血等の主な症状が消えた後2日経過するまで
百日咳	治療なしは咳出現後、約3週間を経過するまで	飛沫 接触	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な治療を終了するまで
髄膜炎菌性髄膜炎	治療開始後24時間経過するまで	飛沫 接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで
腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	便中に菌が排出されている期間	経口 接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで(無症状病原体保有者の場合、2回以上便から菌が検出されなければ登園可能)
急性出血性結膜炎	—	飛沫 接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで
流行性角結膜炎(はやりめ)	充血・めやになど症状を発病してから数日間	接触 飛沫	医師により感染の恐れがないと認めるまで(めやす:感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから)
伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱から膿の出る間	接触 傷口	医師により感染の恐れがないと認めるまで(めやす:確実にガーゼで覆い感染を防げること)
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	飛沫 接触 経口	抗菌薬の内服後24~48時間が経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	飛沫	医師により感染の恐れがないと認めるまで(めやす:発熱や激しい咳が治まっていること)

病名	感染しやすい期間	感染経路	出席停止期間の基準・登園のめやす
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	飛沫 経口 接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること)
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発疹出現前の1週間	飛沫	病状により医師が感染の恐れがないと認めるまで(めやす:全身状態がよいこと)
ウイルス性胃腸炎 感染性胃腸炎 流行性嘔吐下痢症 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状喪失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	経口(糞口) 接触 空気(乾燥した吐物から) 食品媒介	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること)
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排出しているので注意)	飛沫 接触 経口	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること)
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	飛沫 接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:呼吸器症状が消滅し全身状態がよいこと)
帯状疱疹	水疱を形成している間	接触	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:全ての発疹がかさぶたになること)
突発性発疹	—	飛沫	医師により感染の恐れがないと認めるまで (めやす:解熱し機嫌が良く全身状態がよいこと)

※感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については(―)としている。

感染対策

1 飛沫感染

咳や鼻水が飛び散り感染します。くしゃみは5m、咳は2m飛ぶといわれています。「咳エチケット」を守りましょう。

～咳エチケット～

- (1) 咳・くしゃみを人に向けて発しないようにする。
- (2) 咳が出る時などはできるだけマスクをする。
- (3) マスクがなくて咳やくしゃみが出そうになった場合はハンカチ、ティッシュ、タオルなどで口を覆う。
- (4) 素手で咳・くしゃみを受け止めた場合はすぐに手を洗う。

2 空気感染

空気感染の範囲は部屋全体、空調が共通する部屋と言われています。部屋の換気をしましょう。

3 接触感染

ばい菌がついた手などで口、鼻、眼を触ることによって、ばい菌が体内に入り感染します。しっかり「手洗い」を行いましょう。

4 経口感染

ばい菌がついた食品を口にすることで感染します。調理器具はしっかりと洗浄・消毒し、食材は衛生的に取り扱い、加熱食材はしっかりと加熱しましょう。

5 糞口感染

糞便を処理した手についたばい菌が口、鼻、眼を触ることによって、ばい菌が体内に入り感染します。しっかりと「手洗い」しましょう。

6 血液媒介感染

血液には様々な微生物が含まれていることがあります。出血していたり、ジュクジュクしていたりする場合には、傷口を絆創膏などで完全に覆うようにしましょう。